

有望素材シート（23年度）（案）

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	黒潮町	素材名	カツオを中心とした魚介類、ブナシメジ等の農産物
		関連素材	

現状・課題	<p>＜現状＞</p> <p>黒潮町の漁業は、沖合を黒潮が流れる好漁場に恵まれ、町内に漁港を7港及び港湾2港を有し、近隣市町村と比較しても漁業への環境整備が進んでおり、古くから沿岸及び近海カツオ一本釣りなどが盛んである。特にカツオの水揚げは全体の70%以上を占めており他地域に比べ魚価も高く、「佐賀のカツオ」としてのブランドも一定定着してきている。</p> <p>農業では、温暖多雨の気候で農業生産条件が良好で、基盤整備や近代化施設の導入等によりキュウリ、ニラ等の施設園芸や宿根かすみ草やテッポウユリ等の花卉、ブナシメジ、エリンギ等の菌茸類を中心に栽培を行い、地域の実情に即した農業を展開している。</p> <p>＜課題＞</p> <p>漁業においては、近年の燃料高騰、消費者の嗜好の変化や社会動向による魚価の低迷、就業者の減少と高齢化が更に進むことが予想され、漁業全体を取り巻く状況は厳しい。農業においても、高齢化が進んでおり農業従事者の減少が顕著で、それに伴い耕作放棄地も増加の傾向にある。</p> <p>高速道路などの交通・流通基盤と情報通信基盤の整備の遅れなどから、生産物の販路拡大は難しく、第1次産業を始め製造業や卸売・小売業といった事業所及び従業者も減少してきている。</p>
今後の方向性	<p>カツオのたたき作り体験や漁業イベント等の体験漁業により観光客で賑わっていることから、更なる海洋資源活用の充実及び「佐賀のカツオ」ブランドの一層の定着により漁家収入の増と雇用の拡大を図る。農業については、今後ブランド化の取り組みや、製造業、卸売・小売業、飲食業等多方面の業種と連携を持ちながら、農業経営の安定化により新規就農者の増加を図り、農業の活性化につなげていく。</p> <p>これらを実現していくうえで、新たに整備される農林水産物直売・食材提供供給施設を最大限に活用することで交流人口の拡大や農林水産物の販売額増加につなげる。</p>



『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	さが道の駅整備事業
	関係市町村名	黒潮町

事業の概要	<p>農林水産物直売・食材提供供給施設を整備し、地域内で生産された農林水産物や加工品の展示販売・PRを行い、食材提供供給施設での地場産品メニューの開発により新たな魅力を発掘することで、農林水産物の販路拡大を目指す。また、観光客や通過客とのふれあいの場としての地域間交流促進や幅多地域の玄関口として情報発信し、町内及び幅多管内のスポット連携を促すことにより地域活性化を図る。</p> <p>さが道の駅整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木造平屋建て</li> <li>①直売所・レストラン・情報発信施設 A=494.0㎡</li> <li>②トイレ A=70.0㎡</li> </ul>
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 黒潮町</p> <p>【関係機関】 漁協、JA、商工会、森林組合、地域産品生産農家等</p>
-------	--

主な内容・スケジュール	取組手順	前年度【～H22】	事業実施【H23】	1年後【H24】	2年後以降【H25～】
	施設建設			施設建築実施設計	施設建築工事 備品整備

指標・目標	項目	前年度【～H22】	事業実施【H23】	1年後【H24】	2年後以降【H25～】
	雇用数の増	【設定根拠】			
		<p>【推計の考え方】</p> <p>店（駅）長 1名 パート 7名（店舗管理・POS業務・物流業務・売場業務・食堂業務等） 繁忙期は増員にて対応</p>			

仕分	A	【考え方】
----	---	-------

総事業費等	<p>総事業費 300,000 千円 （うち22年度 0 千円）</p> <p>（内訳 国： 県： 56,666 市町村： 243,334 その他： ）</p> <p>想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）</p> <p>国： 県：高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援： その他：</p>
-------	--

備考	
----	--

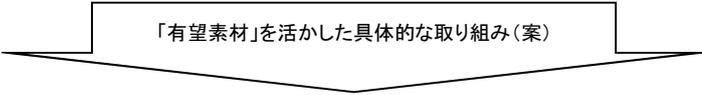
有望素材シート(23年度)

(案)

『地域アクションプラン』検討過程での有望素材の洗い出し

市町村名	四万十市	素材名	地域野菜、四万十川ならではの水産物などの地元産農林水産物
		関連素材	カヌー体験などの体験型観光プログラム

現状・課題	<p>(現状) 日本最後の清流「四万十川」中下流域と太平洋の恵まれた自然環境と豊かな農林水産資源を有する四万十市の中で、西土佐地域は、四万十川中流域の拠点に位置し、東西に国道381号、四万十川沿いの南北に国道441号が走り、愛媛県側の「北の玄関口」として重要な位置にある。 主幹産業は農林業で、水稲、野菜の露地・施設栽培のほか、ゆず、くりなどが栽培されており、「ふるさと市」では農産物や加工品などを販売している。 四万十川流域での内水面漁業は鮎、うなぎ、えびなど四万十川ならではの水産物の漁獲があり、鮎市場(西部漁協)が関西・関東地方まで出荷し、四万十川産品として一定の認知を得ている。 観光面では、カヌーのメッカとして有名で、カヌー館、四万十楽舎や民宿などでは5月の連休、夏季休暇の時期に多数の交流客が来訪し、近年では体験型観光(学習)やグリーンツーリズムの拠点地域となっている。</p> <p>(課題) 農林業では、少子高齢化・過疎化が進み担い手の不足が深刻化しており、水産業では、近年は河川環境の変化などにより漁獲時期の変動があり、漁獲量の低下が懸念されている。 また、豊かな農林水産資源と観光資源を有しているものの、生産・販売・流通、情報発信の統一化が図られていないため、地域内外に向けて地域の魅力、資源などを効果的に発信・提供できていない状況にある。</p>
今後の方向性	<p>「ふるさと市」は、年々販売実績を伸ばしており、地域内で身近に換金できる場として生産者の意欲と所得の向上に寄与しているとともに、生産力の向上につながることも期待される。また、外販部会による松山市などでの外販活動も一定軌道に乗ってきている。 この「ふるさと市」を拡充し、加えて鮎市場の参画を得る形で、「地産地消」、「地産外商」をトータルでコーディネートする拠点を整備し、農林水産業、商工業、観光業の連携を促進しながら、西土佐地域の有する豊かな農林水産資源と観光資源を効果的に売っていくことで、農林水産物の生産・販売額の増加、商工業の活性化、観光業における交流人口の拡大などにつなげ、地域活性化を図る。</p>



『地域アクションプラン』における具体的な取り組み案

項目	取り組み名	(仮称)にしとさ道の駅整備事業
	関係市町村名	四万十市

事業の概要	<p>現在、運営中の「ふるさと市」(地域野菜、加工品等の直販施設)を拡充し、①地域野菜、加工品等の直販、②地産地消(学校給食、診療所、福祉施設等への食材供給)、③地産外商(松山市、宇和島市等への外販活動の拠点)、④四万十川鮎市場(鮎、うなぎ、えび等の販売拠点)の機能を持たせた地元農林水産物、加工品の販売拠点施設を整備し、販路の拡大と生産者の所得・生産力の向上による農林水産業の振興を図る。 また、情報発信と高齢者や女性グループ、漁業関係者、商工業者、観光関連団体など多様な人材、組織との連携を促進し、四万十川中流域の拠点、愛媛県側の「北の玄関口」である西土佐地域の地域資源全体を活用した総合拠点として地域活性化に寄与する。</p> <p>(仮称)にしとさ道の駅整備事業 ・木造平屋又は二階建て ①直販所、交流施設(体験工房など)、テナント施設(レストランなど)、情報発信施設 A=未定 ②トイレ A=未定 ③駐車場 A=未定</p>
-------	---

事業主体等	<p>【事業主体】 四万十市 【関係機関】 ふるさと市組合、四万十川西部漁協、JA、商工会、森林組合、(株)西土佐四万十観光社ほか</p>
-------	---

主な内容・スケジュール	取組手順	前年度【～H22】	事業実施【H23】	1年後【H24】	2年後以降【H25～】
	施設建設			基本計画・設計	
開設準備				開設準備 ・地域産物の流通形態の確立と外商の強化 ・運営体制(人材育成)確立	
指標・目標	項目	前年度【～H22】	事業実施【H23】	1年後【H24】	2年後以降【H25～】
	雇用数の増				未定
仕分			【考え方】		

総事業費等	<p>総事業費 未定 (うち22年度 0千円) (内訳 国: 県: 市町村: その他: ) 想定する支援事業(補助金名、人的支援の内容、その他) 国: 県: 高知県産業振興推進総合支援事業 人的支援: 高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業 その他</p>
備考	